

文部科学省指定

高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究

～Will Project におけるキャリア教育の取組～

平成19年度

実施報告書

(1年次)

秋田県立能代高等学校

も く じ

1. 校長あいさつ（巻頭言）	1
2. Will Project におけるキャリア教育の取組	2
3. 将来構想 基本方針と今後の取組について（まとめ）	4
4. 具体的な取組	
1) スクールマナー集会	6
2) 職業研究・学部学科調査	7
3) 社会人講話	8
4) 学部学科説明会・大学出前講座	10
5) ディスカッション・ライフプランの作成	11
6) インターンシップ	12
5. この一年を振り返って～成果と課題～	14
6. アドバイザーの紹介とコメント	16
7. 調査票の原稿資料	17
8. 学校新聞（校友時報）より	19



キャリア教育 報告書

巻 頭 言

校 長 井 上 高 廣

大正12年、能代港町議会において「能代に県立の中学校を」との建議書が全議員満場一致で採決されました。建議書の冒頭は「一国文教を以って興り、一国文教を以って亡ぶ、教育第一それ叙説を要せんや」という文章で始まっています。時代は変わっても、この建議書の精神はいつまでも変わることの無いものと考えます。教育の力によって有為な人材が育つことに国や地域の存亡が掛かっているのではないのでしょうか。

能代高校で昨年9ヶ月をかけて将来構想を練りました。その結果できたのが **Will Project** です。今年度から活動を始めましたが、「人づくり」を意識したものであり、建議書の精神と同じものと考えます。本校は地域の進学校であるが故に進学実績を上げなければいけないのは当然ですが、ただ大学進学者数が増え、難関大学に沢山合格できたから良いのではなく、将来地域や日本、さらには世界を揺るがすような多くの人材を輩出できる学校にならなければいけないと考えます。そのために「夢」と「志」を持たせる学校を目指します。「夢」は「〇〇に成りたい」だとすると「志」は「自分だけではない△△のために」という気持ちと定義しました。国や地域、多くの人に貢献できる人間に育って欲しいとの願いを込めたプロジェクトです。しかも、これは本校教員が先頭に立ち、同窓生や地域の方、企業や大学等の力を結集して生徒を大きく育てようというものです。

Will Project は学校の教育活動全てに関わる将来構想ですが、進路指導面においてはキャリア教育的な要素を柱としています。キャリア教育の必要性を感じながらも、進学校でそれをそのまま取り入れるのは難しい面があり、本校に適した独自の取り組み方を考えたつもりです。

昨年度は、**Will Project** の基本精神、実施内容、活動内容、年間計画を決めました。今年度から活動が始まりましたが、前年度内に総合的な学習時間1時間ずつの計画ができておらず、今年度になって実施と細案作りの同時進行で大変慌ただしいものとなりました。**Will Project** 推進委員会が計画・実施に当たりましたが、委員長を教頭とし総勢スタッフ12名で進行しました。軌道に乗った事業であれば概略の説明で理解され進行するのですが、進学校の極めて多忙な中全く新しい事業を展開するのは大変な苦勞があり、事業の趣旨、作業内容を全教員に周知徹底するのが本当に難しいものと感じました。委員長以下各委員の粘り強い取り組みで、プロジェクトの重要性と必要性が理解してもらえるところまでできました。まだ研究の途についたばかりで、これから来年度の準備を進める上で計画の改善をしていかなければならないと考えています。また、この計画推進に対して生徒が積極的に参加し教員と共に協力し、新しい能代高校を作り上げなければいけません。

これまでの取組が生徒をどれだけ変容させ、効果があるのか分析をし、今後の課題を洗い出す必要があります。この評価方法を、リクルートワークス研究所主任研究員の辰巳哲子氏と筑波大学藤田晃之准教授の指導のもと作成しました。生徒にとって効果的かつ効率的な研究であるためには、外部の専門家の指導は欠かせないものであり、お二人の指導には大変感謝しております。

これからの社会を考えると、日本でも世界でも明るい未来が開けているとは言い難い状況にあります。政治、経済、エネルギー、環境問題、少子高齢化、秋田県の過疎化、これらの問題を解決するには、力と意欲のある人間をどれだけ育てられるかに掛っております。我々はキャリア教育の中で「大きな夢」と「高い志」を持ち、さらに、粘り強く努力する人間を沢山育てるという考えを基本に、改善を重ね地域に発進していく努力を惜しみません。



Will Project

における キャリア教育の取組

1 Will Project の策定

平成18年度に、本校の将来構想委員会は、およそ9ヶ月をかけて Will Project（資料はp. 4）を策定した。策定に至る経緯は次の通りである。

本校は、能代市という地方都市にあって、進学校の位置にあることから、進学者の質と量の拡大が常に重点課題になっている。数年前に国公立大学への進学者数が2桁に後退した時期があったが、昨年度から3桁に回復している。この間、「すべては生徒の幸せのために」という合い言葉のもと、教職員は生徒の希望を叶えるべく、授業を第一に考えて学力向上を目指してきた。そして、朝学習、土曜学習、放課後補習、夏季補習（3年生は20日、1・2年生は10日）、冬季補習（夏季と同じ日数）、小論文指導、添削指導など、考えられるだけの課外指導もこなしてきた。また、難関大プロジェクトを立ち上げ、学習の核になる生徒を意図的に育ててきた。その甲斐あって、今年は東京大学や京都大学、一橋大学へも合格者を出せるまでになった。

こうした流れの中で、課題と感じられるものも増えてきた。明確な目的意識をもって進学を志す生徒が少なくなってきたこと、自発的な学習習慣が身に付いていない生徒が多くなってきたこと、それに教職員側も、偏差値重視の指導や課題を与えるだけの指導では、これ以上飛躍的に生徒を伸ばすことには限界があると感じるようになってきたこと、などである。

これらの課題を解決するため、昨年の夏から将来構想委員会を立ち上げ、9ヶ月をかけて大幅な見直しを行った。この作業では、全職員によるグループ・ディスカッションや生徒会との意見交換、

さらには、保護者や同窓会へのアンケート調査を実施して多くの意見を吸い上げた。そこで得た結論は、生徒の内面に直接問いかけ刺激するような啓発的指導を重視しなければならないというものである。

2 Will Project のねらい

そこで我々は、生徒に「大きな夢と高い志」を持たせる取組を実施することによって、自己の可能性に挑戦する気概を育てたいと考えた。明確な目的意識によって、学習意欲を向上させ、自発的な学習を促したい。この取組が、生徒・職員のモチベーションを高め、学校を変える起爆剤となることを期待して、これに伴うすべての取組を Will Project と称し、実行に移している。この取組には「地域や日本、世界を揺るがすような人材を育て、社会に送り出したい」という思いを込めている。

3 Will Project の具体的な取組

具体的な取組としては、次の4項目をあげている。

- I 基本的生活習慣の確立
- II 自他を知り、社会を知ること、学びの意欲を高める
- III 学習指導の改善
- IV 文武両道の堅持

なかでも、「夢と志をはぐくむ」ための新しい試みとして導入したのが項目のIIであり、「総合的な学習の時間」を用いて「学びの意欲を高める」取組となっている。

1年では、「聴く、調べる、表現する」活動を通して、夢を持たせるとともに、調査力、整理力、表現力をつけるために、社会人講話、職業研究、大学研究、ライフプランの作成などを計画した。

2年では、「体験し、志を高める」活動を通して、自主的活動を奨励し、計画・実践・まとめ（発信）・自己評価できる力をつけるために、オープンキャンパス、インターンシップ、進路研究、ライフプランの作成などを計画した。

3年では、自律心と向上心、目標達成意欲をたかめ、困難に負けない力をつけるために、志望理由書の作成や個人面談の充実、進路別学習の講座の開設などを計画した。

初年度であることから、スクールマナー集会や社会人講話など、全校あるいは2学年に共通した計画としたものもある。

4 調査研究推進校の指定

このような計画をもとに、平成19年4月、文部科学省の「高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究実施要項」に基づき、計画書を提出したところ、同6月1日付で「高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究推進校」の指定を受けることになった。

5 研究課題及び研究内容

上記の計画書において設定した研究課題及び研究内容は次の通りである。

「自他を知り、社会を知ることで、学びの意欲を高める指導方法の充実」を研究課題として①②③に示す調査研究を行う

- ① キャリア教育の在り方に関する効果的な指導内容・指導方法の充実・改善
- ② キャリア教育の専門的知識を有する外部人材の活用及びその活用の在り方
- ③その他

①に関しては、Will Project の具体的な取組の項目「Ⅱ 自他を知り、社会を知ることで、学びの

意欲を高めるために」として計画したことを展開していくなかで、より効果的な指導内容・指導方法を模索しながら実施し、実施後の反省をもとに更に改善して次年度の計画を作成することと捉えて進めてきた。

中心的な企画・運営は、「Will Project 推進委員会」が行い、各学年部が具体的に展開した。委員会は、毎週校時に定例で開催し、状況によっては臨時のものがあり、長期休業における各学年からの事情聴取も行った。

なお、具体的な取組事例は、P. 6以降に掲載している。

②に述べている「キャリア教育の専門的知識を有する外部人材」とは、社会人講話の講師、大学研究などに関連した教授等、進路講話・講演会の講師、研究推進のためのアドバイザーを含めて考えている。

特に、1年生の「聴く、調べる、表現する」活動の「聴く」に力を入れたいと考え、この一年でおよそ60人の「外部人材」を招聘することになった。それぞれの企画の成否が講師の選定にかかっていることから、次年度以降も大きな課題となる。

研究推進のためのアドバイザーは、P. 16に紹介している。アドバイザーからは、キャリア教育の基礎からのレクチャーから「自己効力感」をもとにした「評価シート」の作成まで、実に多くのアドバイスをいただいた。紙面を借りて感謝の意を表したい。

なお、「評価シート」に関しては、P. 17以降に掲載した。

③の「その他」は、キャリア教育だけにこだわらず、学校の教育活動全体を通じて規範意識の涵養や自ら学ぶ力の育成をすることにより、将来様々な分野で日本や地域の中核を担う、心身ともに健康な人間を育てていくことを追求したいと考えた項目である。

さまざまな制約があって、この冊子の原稿は、平成19年度のすべての取組が終了する前の執筆になってしまったことをご承知おきください。

Will Project

～夢と志をはぐくむ学校を目指して～

基本方針と今後の取組について（まとめ）

構想検討委員会（H.19.3）

1. 「Will Project」の基本的考え方

- ◎「人を育てる」ことを明確に意識した、人づくりのシステム化を目指す。
- ・生徒・職員のモチベーションを高める取組であること。
 - ・学校を変える起爆剤となるものであること。

2. 基本方針

(1) 目指す学校像と人間像

- 学校像：夢と志をはぐくむ学校
- 人間像：様々な分野で日本や地域の中核を担う、心身ともに健康な人間

※地域の進学校としての立場を堅持し、生徒の能力や特性を最大限伸ばし、生徒が自らの夢の実現に向かって歩んでいくための土台をつくる。

(2) 目指す生徒像

- ①礼儀を含め、基本的な生活習慣が確立している生徒。
- ②自己の可能性に挑戦する気概を持った生徒。
 - a) 確かな学力を身につけた生徒
 - b) 主体的に学び活動する生徒
 - c) 明確な将来目標と達成意欲を持った生徒
- ③心と体を鍛え、健康で心豊かな生徒。

(3) 指導の柱

- (i) 基本的な生活習慣を確立する。
- (ii) 己を知り、他を知り、社会を知ること、学びの意欲を高める。
- (iii) 学習指導の改善
- (iv) 文武両道の堅持

3. 具体的取組について

(I) 基本的な生活習慣の確立に向けて

- ①マナーアップ指導
- ②礼法指導の実施
- ③規範意識の向上にむけた取組
- ④家庭との連携
- ⑤年間指導計画の作成

(II) 自他を知り、社会を知ること、学びの意欲を高めるために

- ①「総学の時間」を用いて、「学びの意欲を高める」取組を行う。
- ②各学年の取組
 - 1 年：「聴く、調べる、表現する」
テーマ：探求活動をとおして社会を知り、自分の夢について考える。
ねらい：夢を持たせるとともに、調査力、整理力、表現力をつける。
 - 2 年：「体験し、志を高める」
テーマ：体験活動をとおして自分を知り、社会で

の役割を考える。

ねらい：自主的活動を奨励し、計画・実践・まとめ（発信）・自己評価できる力をつけるとともに、ライフプラン作成能力をつける。

3 年：挑戦する気概を育てる。

テーマ：進路別探求活動をとおして、進路目標に関する研究を深める。

ねらい：自律心と向上心、目標達成意欲をたかめ、困難に負けない力をつける。

③3年間の指導計画…【別紙資料】

④運営体制

- (a) 進路指導部に「専任」をおいて対応する。
- (i) 「専任」と進路・総務・教務の各主任、学年部担当で「Will Project 推進委員会」を構成し、企画・調整と実務を行う。

(III) 学習指導の改善について

①カリキュラムの改訂

②日課表（時間割）の見直し

- (a) 時間割は次の通り。
 - 50分授業週3日6コマ、週2日7コマで実施。
 - 7コマの曜日は、火曜日と木曜日。
 - 総合学習は水6校時、LHRを木7校時に実施。
 - 理数科の課題研究は、7時間目に確保する。
 - SHR、「面接時間」を確保する。

(i) 退校時間について

- 「部活教養日（自学の日）」は、毎週火曜日。
- 部活休養日以外の日は、生徒は7時までに退校、職員は8時までに退勤することを原則とする。特例を認める。

③朝学習・土曜学習・補習・AO対策等の効果的実施について

- (a) 朝学習・土曜学習について
- (i) 平常時補習の実施について

④授業改善研修の充実について

- (a) 本校で目指す「良い授業」とは
- (i) 研究授業の実施
- (u) 授業アンケートの実施
- (e) 教育専門監や指導主事、予備校講師による授業を参観・研究会の実施
- (o) 校内授業専門監の設置。（検討事項）

⑤評価法の研究

⑥学力向上対策の研究

⑦個別指導の改善

(IV) 文武両道の堅持について

- ①部活動の奨励・活性化
- ②学習時間の確保
- ③教科外能力の評価
- ④人間性の錬磨

（注）紙面への掲載の都合上、主な項目を取り上げて、詳細な記述は一部省略している。

「総合学習の時間」年間計画

			1 年	2 年	3 年	備 考
4月	11 水	総学	スクールマナー集会			
	18 水	総学	進路希望調査①	進路希望調査①	進路希望調査①	
	25 水	総学	Will Project の説明会	Will Project の説明会	志望理由書の書き方	
5月	2 水	総学	5月2日の授業と振替	インターンシップ事前指導① 2コマ	志望理由書作成①	
	9 水	総学	社会人講話① 2コマ	5月9日の授業と振替	志望理由書作成②	
	16 水	総学	5月24日の授業と振替	教育実習生講話		
	24 木	総学	職業研究①	オープンキャンパス事前指導	6月20日の授業と振替	
	30 水	総学	職業研究② 講話 2コマ	インターンシップ事前指導②	進路指導資料の説明会 (推薦・AO入試対策)	
6月	6 水	総学	職業研究③	進路講話 (2年)		
	13 水					第1回考査
	20 水	総学	職業研究④	オープンキャンパス(弘前大)	小論文模試 2コマ	
	21 木	午後	特別講座 (外務省大臣官房国内広報課)			社会人講話②と兼ねる
	27 水	総学	職業研究⑤	インターンシップ事前指導③	進路講話 (3年)	
7月	1 日	学校祭	学校祭で中間発表 (掲示)			
	11 水					月曜授業
	17 火	昼休み		インターンシップ事前指導④		
	18 水	総学		インターンシップ事前指導⑤	オープンキャンパス事前集会	1年は野球応援
	20 金	LHR	職業研究 グループ発表会			
	23 月			インターンシップ・1日		
	24 火			インターンシップ・1日		
	25 水	朝学習	職業研究 クラス発表会	インターンシップ・1日		夏休み前の集会
26 木	夏休み		インターンシップ事後指導			
夏休み			オープンキャンパス(東北大)	オープンキャンパス(各自)		
8月	21 火	総学	課題テスト	課題テスト	課題テスト	22日と曜日交換
	29 水	総学	大学研究①	インターンシップ発表会クラス毎	3年進路希望調査②	
9月	5 水	総学	社会人講話③ (フォーラム21: 有名企業の方 7人) 3コマ			
	12 水	総学	インターンシップ発表会・見学	インターンシップ発表会 1・2年合同	個人面談 (受験相談)	
	26 水	総学	大学研究②	修学旅行の諸注意	個人面談 (受験相談)	
10月	3 水	総学				国体にかかわる休業日
	10 水	総学	進路希望調査② / 大学研究③	進路希望調査② / 進路研究①	進路希望調査② / 進路別学習①	
	17 水	総学	10月17日の授業と振替	進路研究②	進路別学習②	
	24 水	総学	学部学科説明会 2コマ		進路別学習③	2年修学旅行
31 水	総学	大学研究④	進路研究③	進路別学習④		
11月	7 水	総学	進路講演会 (野村資本市場研究所部長 井瀧正彦氏)			社会人講話④と兼ねる
	14 水	総学	ライフプラン作成説明会	ライフプラン作成説明会	進路別学習⑤	
	21 水	総学	ライフプランの作成指導	進路研究④		3年第3回考査
	28 水	総学	11月28日の授業と振替	大学出前講座 2コマ	進路別学習⑥	
12月	5 水	総学	社会人講話⑤ 2コマ	11月28日の授業と振替	進路別学習⑦	
	12 水	総学			進路別学習⑧	1・2年第3回考査
	19 水	総学	クラス・ディスカッション	進路研究⑤	進路別学習⑨	
	26 水					冬休み前の集会
冬休み			ライフプラン作成	ライフプラン作成		
1月	16 水	総学	ライフプラン発表原稿作成	ライフプラン発表原稿作成	進路別学習⑩	
	23 水	総学	ライフプラン発表会	ライフプラン発表会	進路別学習⑪	
	30 水	総学				前期選抜
2月	6 水					前期選抜合格発表
	13 水	総学	小論文指導①	小論文指導①		
	20 水	総学	小論文模試 2コマ	小論文模試		
	27 水	総学	2月20日の授業と振替			
3月	5 水					一般選抜
	12 水					一般選抜合格発表
	19 水	総学	1年間のまとめ	1年間のまとめ		(後期選抜)

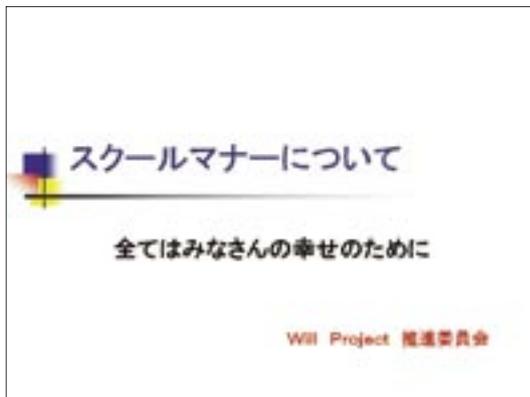
具体的な取組

スクールマナー集会

目的・ねらい

学校生活のルール及び高校生としてのマナーを生徒及び職員が確認する。

内 容



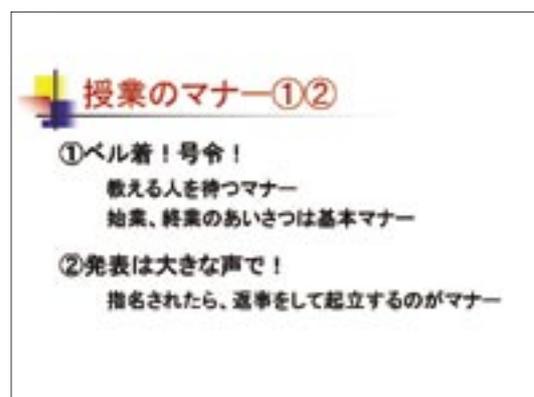
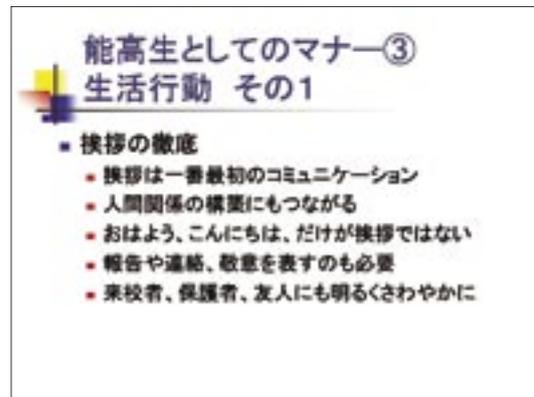
生徒向けのマナー集会に先駆けて、4月11日(水)の職員会議で全職員による生徒指導面の共通理解を図った。翌日の4月12日(木)に全校生徒を対象として、パワーポイントと実演により、マナーアップ指導と規範意識の向上に向けての取組について説明を行った。

講師は、スクールマナーについて生徒指導主事、授業等への取組についてを教務主任が担当した。

成果と課題

集会後の玄関指導や街頭指導などと連動して指導をすることにより、あいさつや朝学習の開始状況なども例年より引き締まって行うことができた。また、職員の指導に素直に応じることができるなど、指導の通じる生徒が増えた。

授業態度等については、各教科担任の指導に委ねるところが大きいと、来年度以降も全職員が共通理解を持ち、毎時間こまめに指導していくことが必要となる。



[パワーポイントによる説明]

職業研究・学部学科調査

目的・ねらい

探求活動をとおして、社会を知り、自分の夢について考える。

大学の特色や学部・学科の内容を詳しく調べることで、大学で学ぶイメージを明確化し将来の進学の方角性を見つける。

学部・学科の最新情報に触れながら、興味関心をより深め、2年次のコース選択の動機付けとする。

夢を持たせるとともに、調査力・整理力・表現力の育成をする。

内 容

職業研究① 導入としてワークシートを活用し興味のある職業について考えさせる。

職業研究② ㈱リクルートの島田満俊氏の講話を聞き職業選択の幅を広げるとともに、職業に対する意識を高める。

職業研究③④⑤ 各自調査、研究レポート作成。

職業研究（中間発表） 学校祭にて職業研究レポートを展示し、保護者の方々にも自分たちの取組を理解してもらうよう務める。

職業研究（発表会） 各自が作成した研究レポートをもとにクラスでの発表会を行う。小グループで発表し代表1名を決定しクラス全体へ発表を行い、自分の興味・関心だけでなく他の職業にも目を向けることができた。

学部・学科調査① ガイダンスを行い、受験システム、調査の必要性、調査方法などを説明。学部分類のアンケート実施。

学部・学科調査② 学部分類ごと（10グループ）に分かれ、グループの特徴に応じたアドバイス等を行う。

学部・学科調査③ 各自調査。

学部・学科調査④ 学部分類ごとにレポート発表を行う。終了後、担当者から「学部・学科通信」作成の指示。

成果と課題

通信の作成・発行を通して、自分の志望する学部学科や学問分野への興味関心を持ち続け、更なる進学意欲の向上につながった。

進路選択と職業との関係性を知ることができた。生徒個人が発表する場や、他の意見を聞く場が増え、考え方の視野が広がり、自分の意見を発信することができる生徒が増えた。今後、どのようにしたら生徒の個性、自主性を伸ばすことができるのか、検討が必要と思われる。



[学部学科通信の展示]



[小グループでの発表の様子]

社会人講話

目的・ねらい

企業や研究機関はじめ社会のさまざまな分野で活躍している方々の講話を聴くことで、望ましい職業観や人生観を養う。また、将来の夢や志、生き方や在り方を真剣に考えることで、進路選択や進学意識の向上、進路目標達成に対する学習意欲の高揚を図る。

社会人講話① 5月9日

働くということについて考えるきっかけを作るため、生徒にとって身近な大人である保護者に講話をお願いした。この後すぐに「職業研究」に入り、様々な職業について実際に調べた。

講師一覧

組	保護者名	勤務先
1 A	越後 春彦	(株)丸越
	吉田 誠	吉田きのこ工房
1 B	工藤 康司	世界トラベル
	大坂江利子	まつばら保育園
1 C	齋藤 信昭	東北電力
	柴田 寛彦	本澄寺・能代病院
1 D	工藤 茂子	ひいの薬局
	珍田久美夫	第五小学校
1 E	佐々木 誠	能代高校
	小林 和広	JAあきた白神
1 F	後藤 健	マルケンスポーツ
	池端 千佳	能代北高校



社会人講話② 6月21日

世界的な視野をもちグローバル化に対応できる心構えを育てるため、外務省の高校講座をお願いして実施した。

講師 大森 司氏

外務省南部アジア部南東アジア第一課事務官
演題 『地域協力の流れと日本』

社会人講話③ 9月5日

フォーラム21「梅下村塾」第20期の方々にお話し、日本を代表する企業で活躍しているビジネスマンと接する機会を作った。生徒が将来希望する職業は身近に接することができる職業がほとんどで、教師、公務員、医療系の職種で半数以上を占める。世の中にはいろいろな職業があることを知らせるとともに、何のために働くのかという志を考えさせるきっかけにした。

講師一覧

河村 隆司	三井不動産
大野 雅宏	日本生命
高林 和明	東レ
甘利 康文	セコム
谷 誠	NTT
成田 洋介	ホンダ
山本 浩一	電通

スケジュール

時間	1年生	2年生
1 限	社会人講話 (全体)	
2 限	授 業	社会人講義
3 限	授 業	社会人講義
4 限	社会人講義	授 業
5 限	社会人講義	授 業
6 限	授 業	授 業
放課後	全体講評 (全体)	

講話より

人生に正解はない。どんな職に就くかよりその職でどのように社会貢献するかが大切である。高校時代は自らのポテンシャルを高めるべく、基礎学力や基礎体力を身に付ける時期である。大学進学は単なる通過点であり、学歴で成功/失敗が決まる訳ではない。この先目標が変わるとしても自分の将来について考えることは絶対に必要である。夢や意欲があるからこそ今頑張れるのだから。



社会人講話④ 11月7日

世界で活躍している本校の卒業生から「先輩からのメッセージ」という形で講話をお願いした。OBならではの親近感ある内容で、生徒は頑張れば自分もできると感じたようである。

講師 井 淵 正 彦 氏

野村資本市場研究所研究部長

演 題 『今求められる「世界を視野に入れた志」と「変化に対する強靱さ」』



社会人講話⑤ 12月5日

小グループに分かれてグループ討議を行った。生徒の希望する職業をベースにして、薬剤師、弁護士、医師、市長、アナウンサー、公務員など25人の講師を招いて、やりがいや使命感・働く意義を深く考えさせ、望ましい職業観や人生観の育成を図ろうとした。

生徒はもちろん講師の方からも、将来の目標を明確にして高校生活を送る上で、大変有意義で素晴らしい企画であったという声を頂いた。

職種一覧

薬剤師	山本組合総合病院
薬剤師	赤玉薬局
能代市役所	能代市総合政策課
秋田県庁	産業経済労働部
小学校教員	湊城南小学校
中学校教員	能代南中学校
看護師	社会保険病院
放射線技師	山本組合総合病院
エンジニア	能代オリエンタルモーター
医 師	ねもとクリニック
弁護士	武田法律事務所
アナウンサー	秋田朝日放送株式会社
警察官	能代警察署
保育士	NPO法人メリーゴーランド
プログラマー	秋田公立工芸美術短期大学
新聞記者	北羽新報社
航空関係	大館能代空港ターミナルビル株式会社
通 訊	国際教養大学地域社会貢献チーム
設計士	秋田県建築士会能代山本支部
雑誌編集	株式会社ウェブ
農 業	自営農業
銀行員	北都銀行能代支店
研究職	秋田県立大学木材高度加工研究所
起業家	株式会社スプラッシュ
政治家	能代市長



成果と課題

5回の社会人講話それぞれについて、ねらいや形式を変え生徒の夢や志の育成につながるよう工夫しながら計画・実施した。それぞれの講話はどれも素晴らしかったが、事前事後指導の面では不十分な点もあった。

次年度以降、各講話ごとに十分な事前指導の時間を確保し講話を聴く準備をさせることで、いかに生徒を積極的な気持ちで講話に臨ませることができかが課題といえる。

学部学科説明会・大学出前講座

目的・ねらい

学部学科説明会（1年）

大学の各学部学科で学ぶ内容について、それぞれの大学教員から直接話を聞くことで、「学部学科研究」をより具体的なものとし、学部・学科への理解を深める。また、自らの学問的な興味・関心を再確認し、その学部に対する進学意欲の高揚を図る。

大学出前講座（2年）

大学の各学部学科の講座を実際に受けることで、大学で学ぶ学問の深さを知り、学びたい分野に対する興味・関心をより強いものにする。また、大学で行われている研究をより身近なものとしてとらえることで、その学部に対する進学意欲の高揚を図る。

内 容

○学部学科説明会（1年）

日時：平成19年10月24日(水)

①薬・看護（58人）

岩手医科大学・秋田大学

②理・工（52人）

山形大学・秋田大学

③文・国際（52人）

群馬県立女子大学・国際教養大学

④経済・法（34人）

同志社大学・ノースアジア大学

⑤教育（36人）

秋田大学

○大学出前講座（2年）

日時：平成19年11月28日(水)

A 講座（午後のみ38人）

国際教養大学グローバルスタディ課程

B 講座（午前午後計32人）

法政大学法学部法律学科

C 講座（午前午後計72人）

同志社大学経営学部経営学科

D 講座（午前午後計92人）

秋田大学教育文化学部

E 講座（午前午後計33人）

仙台大学体育学部運動栄養科

F 講座（午前午後計24人）

法政大学情報科学部コンピュータ科学

G 講座（午前午後計38人）

秋田県立大学システム技術学部機械知能システム学科

H 講座（午前午後計33人）

山形大学理学部生物学科

I 講座（午前午後計27人）

岩手医科大学医学部医学科

J 講座（午前午後計44人）

秋田大学医学部保健学科理学療法専攻

K 講座（午前午後計21人）

岩手医科大学薬学部

成果と課題

大学での学問研究の奥深さを知り、興味関心を深めただけではなく、一つの学問がさまざまな分野と関連しあい密接につながっていることに気づき、進路選択の幅を広げることができた。また、大学の先生方の生き方や人間性そのものにも刺激を受け、今後の進路決定に向けて新たな目標を設定できた生徒もいた。さらには、大学側から本校生徒の将来への期待が込められた返信が届くなど、予想以上の成果も見られた。

課題は、今後さらに大学との連携を密にして、より良い関係を構築しながら、生徒達が大学から直接学べるような機会をより多く提供できるようにすることではないだろうか。



ディスカッション・ライフプランの作成

目的・ねらい

ディスカッション

将来の自分をしっかりとイメージし目標を定めるとともに、自らの夢の実現に向かって歩んでいくための土台を作る。

ライフプラン作成

自分なりに働く理由がわかり、これまでの学習のまとめとして目標を持つ。

今の自分に応じた人生設計ができ、互いに発表をして相互理解を図る。

内 容

11月14日、ライフプランの作成は校長自らがその目的・ねらいを生徒に伝えるために、1・2年生が一同に体育館に集うことから始まった。

12月19日、1年生の各教室で、ディスカッションが行われた。事前に渡されたシートには「あなたは何のために働くか」というテーマが掲げられている。生徒は前もってこのテーマについて、社会人講話や今までの活動を振り返り自分の考えをまとめて臨んだ。

始めは各クラス内で少人数グループを作り、一人ひとりが自分の考えを発表する。その後、グループの代表がクラス全体へ意見を発表する。そうして、クラス全体での話し合いがひとつにまとまっ

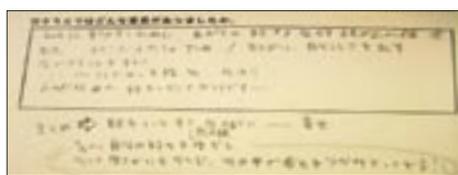
ていった。

これに基づいて、生徒は冬季休業中をかけて自らの人生設計「ライフプランの作成」に取りかかる。できあがったライフプランを、より有意義なものにするために、校長、教頭、各担任が一同に会しその扱いについて話し合った。

1月23日、ライフプラン発表会当日2校時、1年F組の授業は、たくさんの先生方が参観する中、校長により行われた。**Will Project**の集大成といえるこの発表会。グループ内での個人発表、そして代表の発表をみんなで聞く。クラスメイトの真剣な発表にみんなの気持ちが一つになる瞬間であった。この発表会はその後1・2年すべての教室で担任により行われ、大きな達成感のうちに幕を閉じた。しかし、生徒にとって、これが終点なのではない。夢の実現のために今すべきことは何か、これを追い求めることが必要なのだ。また、まだプランが明確に浮かばない生徒は、これを機に真剣に自分と向き合うことが必要となる。

成果と課題

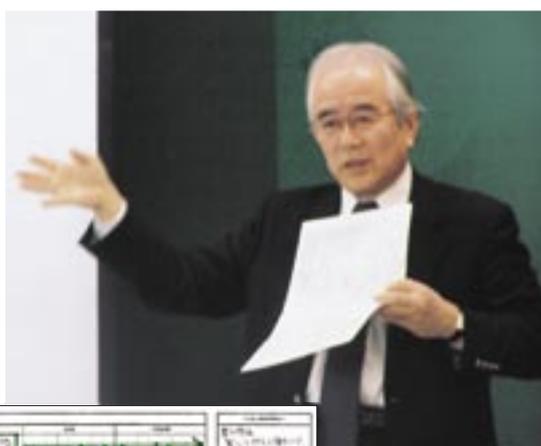
各クラスとも大変盛り上がり、相互理解が進んだようであった。あとは、自分の進路希望を達成するための方法を確立することが重要となるだろう。



ワークシート



ディスカッション



授業の様子



ワークシート

インターンシップ

目的・ねらい

本県では、高校生体験活動推進事業としてインターンシップかボランティアのどちらかを選択し、原則として3日間体験することになっており、インターンシップを実施する多くの学校は高校卒業直後の就職を念頭においている。

しかし、本校では進学を希望する生徒が大多数を占めることから大学等の高等教育機関卒業後の就職を想定して実施している。たとえ现阶段で明確な将来像が描けていなくても、関心のある職種で就業体験を行うことはそれぞれの夢と志を確かなものとしていくための有効な手立てであると考えられる。この体験活動をとおして、学業をはじめとした高校生活全般に対する生徒一人ひとりの主体的な態度を育成することが本校におけるインターンシップの目的である。

指導の過程

(1) 事前指導

①実習先の決定

表1は今年度の指導の流れである。医師や薬剤

表1：平成19年度 インターンシップ指導の流れ

期 日	項 目
4月上旬～	事業者交渉・一次依頼文書発送
4月18日	進路希望調査
4月20日	県教委への報告①
5月2日	講演「インターンシップの心構え」 (講師：安部美恵子氏)
5月29日	地域内高校連絡協議会
5月30日	インターンシップ実施上の諸注意
6月27日	実習場所の最終確認と諸注意
7月2日	保護者への通知（参加同意書等）
7月2日	担当教員と生徒の顔合わせ
7月3日～	各事業所等への正式依頼・打合せ
7月上旬	保険加入
7月17日	担当教員による各事業所等打合せ事項の伝達
7月18日	マナー講習会（講師：佐藤孝子氏）
7月18日	県教委への報告②
7月20日	出発式
7月23日 ～25日	インターンシップ実施
7月26日	実習報告・礼状発送
8月22日	県教委への報告③
8月29日	実習報告書（発表原稿）完成
9月5日	クラス内発表会
9月12日	学年発表会

師、教員などについてはすでに希望者の存在が明らかであり、前年度から病院や学校等への訪問依頼を行っていた。4月の進路希望調査はインターンシップの実施も念頭において行い、大部分の生徒は担任との面談指導により順調に体験先が決まって行った。

ただ、将来の希望が明確でない生徒や、希望が明確でも職種によっては実習先が県内に見あたらないなど、いわゆるマッチングの指導に時間を費やした場合もあった。

②心構え・マナー指導

いずれも外部講師を依頼し、その道の専門家による実践的な指導で職業選択や職場・社会の厳しさを実感させることを意図した。

また、各実習先との連絡調整は全職員が分担して生徒に情報を伝達し、各職員はインターンシップ実施時に担当箇所の巡回指導を行うこととした。



安部美恵子氏による「インターンシップの心構え」(講演)

(2) インターンシップ

期間は原則として夏休み直前の3日間、自宅から直接職場へ向かった。表2はおもな職種別に生徒の実習先をまとめたものである。このうち、教員志望者は原則として出身小・中学校に、医薬関係はすべて能代市内の病院、薬局、製薬会社に受け入れてもらった。実際の体験内容はきわめて実践的で、ある病院では内視鏡手術への立ち会い、薬局では薬の調合、中学校では夏期講座の学習指導補助などであった。巡回指導の先生方からは生徒の感動、驚き、真剣な実習の様子が次々に伝えられた。

また、公務員、福祉・健康や報道の一部については、秋田市内の事業所等にもお願いした。ラジ

表2：実習事業所別依頼生徒数

分類	No.	実習事業所等の名称	小計	分類計
教 育	1	能代市立能代第一中学校	8	55
	2	能代市立能代第二中学校	8	
	3	能代市立能代東中学校	1	
	4	能代市立東雲中学校	7	
	5	能代市立能代南中学校	5	
	6	能代市立常盤中学校	1	
	7	能代市立二ツ井中学校	8	
	8	藤里町立藤里中学校	2	
	9	三種町立琴丘中学校	1	
	10	三種町立山本中学校	3	
	11	三種町立八竜中学校	5	
	12	三種町立湖北小学校	1	
	13	八峰町立八森中学校	3	
	14	八峰町立峰浜中学校	1	
	15	深浦町立いわさき小学校	1	
	16	深浦町立岩崎中学校	(1)	
公 務 員	17	国土交通省能代河川国道管理事務所	6	37
	18	能代警察署	6	
	19	能代消防署	2	
	20	二ツ井消防署	2	
	21	能代市役所	9	
	22	能代市立図書館	3	
	23	秋田地方気象台	1	
	24	秋田県立博物館	6	
	25	秋田県公文書館	2	
医・ 薬	26	山本組合総合病院	51	52
	27	キョーリン製薬	(13)	
	28	能代市薬剤師協会（市内各薬局）	(13)	
	29	秋田社会保険病院	(13)	
	30	能代山本医師会病院	(14)	
	31	サンデンタルラボラトリー	1	
福 祉 ・ 健 康	32	みどりデイサービスセンター	4	15
	33	長寿園	2	
	34	能代市第一保育所	4	
	35	能代市第二保育所	2	
	36	能代市第四保育所	(1)	
	37	秋田県スポーツ科学センター	3	
	理 工	38	高度木材加工研究所	
39		能代オリエンタルモーター(株)	2	
40		宇宙科学研究所能代ロケット実験場	1	
41		秋田大学工学資源学部	9	
42		東北電力(株)能代火力発電所	6	
法 律	43	ひまわり基金法律事務所	2	3
	44	武田孝義司法書士事務所	1	
報 道	45	F M秋田	7	8
	46	北羽新報社	1	
	47	北都銀行能代支店	2	
販 売	48	能代キャッスルホテル	2	3
	49	日産プリンス秋田販売能代支店	1	
建 設	50	中田建設(株)	2	6
	51	大森建設(株)	1	
	52	(株)秋田重車両	3	
そ の 他	53	能代商工会議所	1	18
	54	(有)大和農園	1	
	55	(有)喜久水酒造	1	
	56	リリコイラスト工房	3	
	57	たけくま動物病院	3	
	58	国際教養大学	9	
能代市第二保育所（ボランティア）			1	3
みどりデイサービスセンター（ボランティア）			2	
合 計			224	224
公欠等による不参加			9	9
2年在籍者総数			233	233

※（ ）は複数箇所実習（重複計算を避けるため）

オ局では実際の放送に関わることができた。さらに、理工系の中の情報工学、外国語関係の職業希望者については、通常のインターンシップの趣旨を幅広くとらえ、秋田市内の四年制大学において特別プログラムを実施した。パソコンの基礎的構造に関する学習と企業訪問、また留学生との交流や大卒後の進路研究など生徒の希望に沿った体験内容を準備していただいたことに深く感謝している。



生徒の実習風景（山本組合病院薬局）

(3) 事後指導

実施の翌日（夏休み初日）は全員登校とし、クラスごとに状況報告を行い、あわせて担当の先生に対してもお礼と報告を行った。また、実習先の職場の長や担当者宛に礼状を発送し、発表会用の報告書の作成にも着手した。

発表会は、第1回目をクラスごとに行って代表者を決め、第2回目は来年度のために1年生も加え1・2年合同で行った。個々の体験が全員に共有される貴重な機会となった。

成果と課題

事後に実施した生徒アンケートによると、9割を超える生徒がインターンシップを体験して良かったとし、8割程度がその後の学校生活への姿勢や意欲が向上したと答えている。また、事業所等のほとんどが次年度以降の受入を承諾する意向を示してくれていることもあわせ、相互に一定の評価がなされたものととらえたい。

生徒の希望に合致した事業所や大学等のいっそうの開拓、生徒自身による事業所との事前折衝など、今回の反省を踏まえた新たな試みを検討し、一步前進したインターンシップを目指したい。

この一年を振り返って

～成果と課題～



1 調査研究①について

キャリア教育の在り方に関する効果的な 指導内容・指導方法の充実・改善

限られた時間のなかで、より効果的な指導内容・指導方法を模索しながら実施した。前年度末までに年間計画が作成されていたが、大半が項目として示されてあるだけなので、実施に移すためには、まずイメージの形成・共有から始めなくてはならなかった。ある程度事前の準備がなされていた「スクールマナー集会」や「インターンシップ」にしても、本校にとっては初めての試みであることから職員によってイメージが異なり、その都度多くの議論が重ねられた。

「インターンシップ」を例にとると、理想とするイメージは「自らの夢と志を実現したいと考える職場で、大学等を卒業して就職した状況での就業体験をする」というように想定される。しかし、実際は「自らの夢と志」が明確でない生徒もいる。「夢と志を実現したいと考える職場」が身近にない状況もある。一方では、就業の体験が大事なのであり理想とは異なる職場でも体験させたいという立場があり、他方では、「夢と志」をふくらませることのできない体験ならむしろやめた方がいいという立場があった。委員会での議論とは別にインターンシップの受け入れ側にも制約があり、結果としては、議論の結論を得ないままに、現実とさまざまに折り合いをつけながらどうにか実施に漕ぎ着けることになった。

P. 5の年間計画は、何度も版を重ねたもので、

実施記録とほぼ同様である。個々の項目については、回数を増やしたのもあれば減らしたのものもある。変更を繰り返しながらも、ほとんどの項目を実施に移すことができた。これに関しては、アドバイザーから「イベントが多すぎる」という指摘をいただいた。これから取り組むことに、その意義を理解して自らの課題を設定する時間、一つのことをなし終えた時点で振り返り自らの力として形成する時間の確保が必要と思われる。

生徒の感想文を読むと、「イベント」ごとに好意的な感想を述べたものが多いのだが、相互の関連性がわかりにくいという指摘もあった。委員会の側も、準備に時間がかかりすぎて生徒や職員に対してじっくり説明する時間が不足していたという反省がある。それに、その都度議論を重ねていったことから、先々の見通しをつけた説明をすることができなかったのも事実である。次年度の「Will Projectの説明会」において、明確なストーリーを語れるようにしておくのが課題の一つである。

今年度は「充実」に向けて話し合ってきたが、現在は「改善」を念頭に置いて次年度の年間計画の作成を進めている。次年度においては、2・3年生は、1年間のWill Projectを経験した生徒たちである。たとえば、現在の1年生には既にインターンシップの一次希望調査を行っている。ライフプランも1回目を書き上げている。今年度の反省を生かしながら、次年度の新しい状況に対応しつつ、いかに生徒たちをProjectが目指す生徒像へと育てていくかが最大の課題である。

2 調査研究②について

キャリア教育の専門的知識を有する外部 人材の活用及びその活用の在り方

「人を育てる」「夢と志をはぐくむ」ために、1年生には多くの人から話を聞いて、社会を知り自分の夢について考える機会にしてほしいと思っている。その意味で、今年度計画していた社会人講話をすべて実施できたことは成功であり、次年度も確実に継続したいと考えている。いわゆる社会人講話とは別に、学部学科説明会、出前講座、進路講話、マナー指導などに外部からたくさんの講師を招いて話を聞く機会を作った。

社会人講話5回については、P. 8～9に紹介しているが、講師を①保護者、②外務省事務官、③一流企業のビジネスマン、④本校の卒業生、⑤生徒の希望する職業の方々として、身近なところから出発し、世界へと目を向けて…といったストーリー性をもたせたつもりであった。形式も、体育館で、各HRで、最大26に分散してと、それぞれのねらいに相応しい形式で展開した。実際は、取組の初年度ということもあり、2年生にも聞かせたい、全校生徒に聞かせたいと対象が広がったものもあり、上記の相互の関連性がわかりにくいとの指摘につながってしまった。社会人講話としてのもとは別の講演との混乱もあった。

外部人材を活用するに当たっての第一の課題は講師の人選である。感想文を読むと、講師あるいは講演の内容によって、感動の大きさや与える影響が大きく違っている。講師を選ぶ側の責任も重いと感じている。

次年度への課題としては、先に述べた講話のストーリー性を十分に周知させるとともに、その講話を聞くことによって何を学び何を考えるのかという事前のイメージ形成の時間を設定する必要がある。また、ライフプランなどの事後の取組に生かしていけるようなまとめの工夫も必要である。

外部人材に含めているが、二人のアドバイザーの存在は大きかった。キャリア教育についてレク

チャーを受けた記録もあるのだが、紙面の都合で掲載できないのが残念である。そして、もっとも大きなアドバイスは評価に関するものであった。このことについては後に述べる。

3 調査研究③について

③は「その他」である。本校のキャリア教育は「Will Projectにおけるキャリア教育」という特殊な設定になっている。したがって、現在、次年度の「総合的な学習の時間」年間計画の作成と同時に、Will Project 全体の見直しを行っている。

われわれは、「総合的な学習の時間」を使った取組が、生徒個々の「今何をなすべきか」という課題に到達し、具体的な行動の動機付けになることを期待している。学校全体が、生徒の夢と志をはぐくみ、その実現のための努力に応えられるようなシステムになっているかつねに検証していかなくてはならない。

4 自己評価アンケートの作成

夏休みまでは、毎週定期的で開催する推進委員会は、計画された事項を期日までに実施できるよう、その準備にひたすら専念するという状況であった。夏休み以後、やや先々の準備に余裕が出てきた頃に、アドバイザーから「評価」に関する指摘をいただいた。生徒の感想文や取り組んだワークシートなど、できるだけ多く残すように心がけていたが、年間の取組を評価し、次年度以降の変化を測定するための数値を残すことは念頭になく、大変ありがたかった。

アドバイスいただいたのは、「自己効力感」をもとにした「評価シート」の作成方法である。次ページから掲載してあるものは、アドバイザーとメールのやりとりをしながら作成していった最終段階のものである。アンケートでは、これらの事柄について「非常に自信がある」から「非常に自信がない」までの7段階で答えることになる。未完成ながら、2月末にアンケートを実施した。完成したシートや分析結果、あるいは分析比較・考察など、第2回の報告書で紹介したいと思っている。

アドバイザーの紹介

藤田 晃之 (ふじたてるゆき)

筑波大学大学院博士課程
人間総合科学研究科 准教授



1995年筑波大学より博士（教育学）取得。2003年2月より筑波大学教育学系同助教授。2004年4月の法人化により所属変更し、現在に至る。この間、1995年米国ワシントン大学客員研究員、2006年デンマーク教育大学（現オーフス大学教育学研究科）客員研究員など歴任。現在、文部科学省初等中等局視学委員、経済産業省「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト評価委員会」委員なども務めている。

「盛りだくさんだな」「本当に全部実践できるのかな」——はじめて能代高等学校の「総合学習の時間」の年間計画を拝見したときの偽らざる第一印象はこうでした。

けれども、実際に能代高校にお邪魔して、井上校長先生から Will Project 構想に至るお考えをお伺いし、また、2日間に及ぶワークショップを通して先生方の真摯な議論に接する中で、私の第一印象は大きな誤解に基づくものであることを知りました。本報告書「巻頭言」や「Will Project におけるキャリア教育の取組」等にも記されている通り、「ただ大学進学者数が増え、難関大学に沢山合格できたから良いのではない」という学校としての確固たる姿勢と、「すべては生徒の幸せのために」という共通の想いに基づき、文字通り先生方の総力を挙げてキャリア教育の実践に当たっていらっしゃることに感銘を受けた次第です。

このような先生方の熱意によって、多くの社会人講話、多様な大学出前講座、ライフプランの作成、体系的な事前指導を伴ったインターンシップ等、バリエーションに富むプログラムが実践され、さらに全国的にも類を見ない「能代高校版キャリア教育評価枠組み」とも呼ぶべきフレームワークが形作られてきたのです。アドバイザーとしては何らお役に立てませんでした。能代高校に出会えたことに心から感謝しています。



辰巳 哲子 (たつみさとこ)

リクルートワークス研究所
主任研究員



1992年株式会社リクルート入社。組織人事コンサルティング室の後、キャリア事業開発室にて、若者のキャリアカウンセリング業務に携わり、2003年4月より現職。キャリア教育の研究実績として、提言書『分断されたキャリア教育をつなぐ。』の発行（2004）、岐阜県教育委員会との共同研究（2003～5）、『基礎力の育成でつながる教育現場と社会』（2006）、三重県教育委員会キャリア教育手引書の作成（2007）などがある。

このプロジェクトは、実に多くの人たちの手によって、進められています。生徒、先生、企業、大学関係者、保護者、地域の方々、アドバイザーとして関わらせていただいた私たちも含め、多くの方がプロジェクトに参加しました。能代高校が活動のねらいとしている夢や志も、人とかかわりの中でつくられるものなので、これら多くの人たちのプロジェクトの推進は、生徒たちの「will」にもいい影響を及ぼしていることと思います。

さて、プロジェクトの初年度が終わろうとしています。前半は、様々な活動を通して、関係者の中に起こる気付き（よい点、改善点）を共有する期間でした。振り返りでは、活動のねらいの共有方法や事前学習の課題などが共有されました。後半は、プロジェクトを系統だったものにするために、「当初のねらいは活動を通じて実現されたのか」という点について、2日間の研修を通じて検証しました。「プロジェクトでは、卒業までに、生徒がどのような状態になっていることを目指すのか」をテーマとし、カードに書かれた生徒の状態を皆で分類しました。（写真）これが現在の調査票の基となっています。今後、調査票から明らかになった生徒の状況を活動に反映し、生徒個々の課題については、面談などの中で確認を進めていくことになることと思います。そして、これまでの取組が、一過性のものに終わらぬよう、生徒の声を活動に反映し続けるような仕組みが作られてゆくことでしょう。プロジェクトに携わる大人達も「大きな夢と高い志」を問われています。高い志を持った先生方と一緒に、今後も「生徒のためのプロジェクト」を進めてゆきます。



以下の調査票は、Will プロジェクトの目標を具体化するために作成された。

生徒の現状を把握し、プロジェクトの内容に反映することをねらいとしている。
各項目について以下のように段階を設定したものを基に調査票を作成した。

■自己効力感_段階別項目

※基礎と発展の間のギャップが大きいものは移行段階を設定している

領域	テーマ	基礎段階	移行段階	発展段階
学 習	学 習 計 画	与えられた課題や予習を確実にこなす		得意科目と不得意科目のバランスに配慮しながら、自分で家庭学習の計画を立て、実践する
学 習	授 業 態 度	授業中指名されたら、返事をして起立する		授業中に、自分から手を上げて質問したり考えを述べる
学 習	問 題 解 決	教室で、わからないことを先生に質問する		さまざまな機会をみつけて、わからないことを先生に質問する
学 習	学 習 ス キ ル (ノ ー ト)	指示された事柄を守って、ノートをつくる		自分にとって、もっとも使いやすく、わかりやすいノートを独自につくる
学 習	思 考 と 表 現	小論文の課題に出題されそうな、話題や出来事に関心を持っている	小論文の構成の基本(用語や考え方)を知っている	志望校の小論文に取り組み、類似する課題に挑戦する
将来・進路	意 志	自分の将来の夢や志をもつ	社会の現実を踏まえながら、夢や志を実現する方法を見つける	夢や高い志を、実現させようという強い意志(気概)をもつ
将来・進路	進 路 研 究	自分の進路について、家族や他の人の話を参考に考える		進路について家族が反対しても、なぜその進路が自分にとって大切なかを説明し、話し合える
将来・進路	進 路 研 究	私立大学や国立大学の入試の仕組みを知っている		自分の志望するいくつかの大学の入試について、日程や費用も含めた詳細を知っている
将来・進路	目 標 設 定	やってみたい仕事を、いくつかあげることができる	自分の興味や適性にあった仕事をイメージする	自分がどのような仕事に一番の興味、適性、能力を持っているか知っている
将来・進路	キャリアプラン	興味のある分野の仕事について自分の思いつく範囲で調べ、理解する	自分の興味や適性がある分野の仕事について、人に聞く、書籍で調べる、インターネットで検索するなどして調べる	自己の進路や生き方を考えるのに必要な情報について、効果的で効率的な集め方を知っている
将来・進路	大 学 研 究	自分の興味や適性がある仕事に就くために、大学でどのような分野の学習を専攻することが適しているか、知っている		自分の志望している学部にはどのような講座があり、どのような知識や技術を学ぶことができるのか、知っている
将来・進路	大 学 研 究	自分が志望する学部学科の概略を知り、関連する事柄に関心をもつ		志望する学部学科において、学びたい内容をいくつか持つことができる
将来・進路	学 習 ス キ ル	自分の考えや調べた内容を、先生の支援をもらいながらレポートなどにまとめる		与えられたテーマに関する内容を、自力でレポートなどにまとめる
将来・進路	プレゼンテーション	自分の考えや調べた内容を、きちんとまとめて相手に伝える		自分の考えや体験した内容を、相手に納得、共感してもらえるように伝える
将来・進路	キャリアプラン	何のためにインターンシップをおこなうのが理解できる	インターンシップで学びたい点や挑戦したい課題を設定する	教科やインターンシップなどの学習において、自らの学習目的にあった行動をとる
将来・進路	キャリアプラン	インターンシップで学習したことが、どのように役立つか、理解している	インターンシップで得た経験を、さまざまな場面に応じて活用する	教科やインターンシップで学習したことを日常生活で応用する
将来・進路	勤 労 観	「何のために働くのか」ということに対して、自分なりの考えを持っている		できるだけ多くの社会人から、働くことの意味について学ぼうとする
将来・進路	キャリアプラン	今後の自分の人生設計をたてる		自分の成長や置かれている状況に応じて、人生設計を修正する
生 活	自 己 理 解	自分の長所や短所を知っている	自分の長所の伸ばし方、短所との付き合い方を理解している	物事に取り組む時、自分の強みや持ち味をいかすことができる
生 活	他 者 受 容	自分と異なる意見や価値観に出会った場合、無視するのではなく、理解しようとする	他者の多様な個性を理解することができる	自分と異なる意見や価値観を尊重し、柔軟に受け入れることができる
生 活	感 情 表 現	自分の感情や気持ちを押し殺さず、素直に口に出すことができる		自分の感情をそのまま表現するのではなく、冷静に言葉にすることができる
生 活	感 情 制 御	少しぐらいの怒り、焦り、不快、不満といった感情なら、それを自分でしずめることができる		どんなに激しい怒り、焦り、不快、不満といった感情をいだいても、それを何とかしてしずめることができる
生 活	ス ト レ ス 耐 性	自分はどんなことにストレスを感じやすいか知っている	たいいていストレスはうまく処理することができる	落ち込むことがあっても前向きに気持ちを切り替えることができる
生 活	思 考 と 表 現	話し合いの場で自分の意見を述べるることができる	話し合いの場で、たいいてい場合にははっきりと意見を主張する	話し合いの場で、意見が対立したときでも自分の意見をはっきりと述べるることができる
生 活	協 働 と チームワーク	たとえ自分の考えとは違っても、みんなで決めたことには協力する	集団の中で、自分の担当の仕事をきちんとやりきることができる	集団の中で、自分の役割だけでなく、周囲に目を配りながら課題に取り組むことができる
生 活	感 情 表 現	自分の思いや考えを、相手や周囲の人に伝えることができる		自分の思いや考えを、聞き手にあわせて、伝えることができる
生 活	問 題 解 決	個人的な悩みが生じた時、誰かに相談するなどの、対処の方法を知っている		個人的な悩みが生じた時、悩みの内容に応じて、相談できる知人を選ぶことができる
生 活	健 康 管 理	毎日を健康に過ごせるように、睡眠時間などの管理ができる		健康の維持だけでなく、健康の増進につとめることができる
生 活	責 任 有 る 学 習 者 である	交通ルールを厳守できる	交通ルール・マナーを守り、弱者への配慮をおこたらない	交通ルールを守るだけでなく、他者や環境に配慮したマナー向上に努める
生 活	責 任 有 る 学 習 者 である	携帯電話やインターネットの危険な面を理解している	公共での使用マナーや、校内での利用規則を守って携帯電話やインターネットを利用する	携帯電話やインターネットの危険な面を理解した上で効果的に活用する
生 活	余 暇 管 理	学習と部活との両立を目指し計画性を持って活動する	部活動を通して、自分の心身を鍛えるよう努力する	部における各種の活動を通して心身を鍛え、人としてさらに大きく成長する
生 活	異 性 と の 関 係	同性や異性の、思春期における性的発達に伴う心や体の変化の特徴を理解している		異性を尊重する態度の必要性を理解し、適切な行動をする
生 活	あ い さ つ	校内において、TPO(時・場所・目的)に応じたあいさつを、躊躇なくする		TPO(時・場所・目的)に応じた、好感の持たれるあいさつを、いつでもどこでもできる

設 問

以下の項目を行う上での**自信の度合い**を7段階で自己評価してください。
 自分にあてはまると思う数字を1～7の選択肢の中から一つ選んで○をつけて下さい。
 ※みなさんの現状を把握するためのアンケートです。以下の項目について、自信が持てるかどうか、正直な気持ちで回答してください。

非常に自信がある 自信がある 少し自信がある どちらでもない あまり自信がない 自信がない 非常に自信がない

●学習について

Q1	与えられた課題や予習を確実にこなす	1	2	3	4	5	6	7
Q2	得意科目と不得意科目のバランスに配慮しながら、自分で家庭学習の計画をたて、実践する	1	2	3	4	5	6	7
Q3	授業中指名されたら、返事をして起立する	1	2	3	4	5	6	7
Q4	授業中に、自分から手を上げて質問したり考えを述べる	1	2	3	4	5	6	7
Q5	教室で、わからないことを先生に質問する	1	2	3	4	5	6	7
Q6	さまざまな機会をみつけて、わからないことを先生に質問する	1	2	3	4	5	6	7
Q7	指示された事柄を守って、ノートをつくる	1	2	3	4	5	6	7
Q8	自分にとって、もっとも使いやすく、わかりやすいノートを独自につくる	1	2	3	4	5	6	7
Q9	小論文の課題に出題されそうな、話題や出来事に関心を持っている	1	2	3	4	5	6	7
Q10	小論文の構成の基本（語や考え方）を知っている	1	2	3	4	5	6	7
Q11	志望校の小論文に取り組み、類似する課題に挑戦する	1	2	3	4	5	6	7

非常に自信がある 自信がある 少し自信がある どちらでもない あまり自信がない 自信がない 非常に自信がない

●将来・進路について

Q1	自分の将来の夢や志をもつ	1	2	3	4	5	6	7
Q2	社会の現実を踏まえながら、夢や志を実現する方法を見つける	1	2	3	4	5	6	7
Q3	夢や高い志を、実現させようという強い意志（気概）をもつ	1	2	3	4	5	6	7
Q4	自分の進路について、家族や他の人の話を参考に考える	1	2	3	4	5	6	7
Q5	進路について家族が反対しても、なぜその進路が自分にとって大切なのかを説明し、話し合える	1	2	3	4	5	6	7
Q6	私立大学や国公立大学の入試の仕組みを知っている	1	2	3	4	5	6	7
Q7	自分の志望するいくつかの大学の入試について、日程や費用も含めた詳細を知っている	1	2	3	4	5	6	7
Q8	やってみたい仕事を、いくつかあげることができる	1	2	3	4	5	6	7
Q9	自分の趣味や適性にあった仕事をイメージする	1	2	3	4	5	6	7
Q10	自分がどのような仕事に一番の興味、適性、能力を持っているか知っている	1	2	3	4	5	6	7
Q11	興味のある分野の仕事について自分の思いつく範囲で調べ、理解する	1	2	3	4	5	6	7
Q12	自分の興味や適性がある分野の仕事について、人に聞く、書籍で調べる、インターネットで検索するなどして調べる	1	2	3	4	5	6	7
Q13	自己の進路や生き方を考えるのに必要な情報について、効果的で効率的な集め方を知っている	1	2	3	4	5	6	7
Q14	自分の興味や適性がある仕事に就くために、大学でどのような分野の学習を専攻することが適しているか、知っている	1	2	3	4	5	6	7
Q15	自分の志望している学部や学科にどのような講座があり、どのような知識や技術を学ぶことができるのか、知っている	1	2	3	4	5	6	7
Q16	自分が志望する学部学科の概略を知り、関連する事柄に関心をもつ	1	2	3	4	5	6	7
Q17	志望する学部学科において、学びたい内容をいくつかあげられる	1	2	3	4	5	6	7
Q18	自分の考えや調べた内容を、先生の支援をもらいながらレポートなどにまとめる	1	2	3	4	5	6	7
Q19	与えられたテーマに関する内容を、自力でレポートなどにまとめる	1	2	3	4	5	6	7
Q20	自分の考えや調べた内容を、きちんとまとめて相手に伝える	1	2	3	4	5	6	7

教育方針

校訓

「至誠力行」 (昭和5年制定)

校是

「文武両道」

教育目標

- 己を抑え、清く正しく、真心をもった生活ができるようにする。(克己誠実)
- 強い進路目標をもち、その達成に向かって、自ら求めて学習できるようにする。(自発学習)
- 心と体を鍛え、本校の名声を高めるために部活動に積極的に励むようにする。(部活精励)

沿革・卒業生

沿革

- 大正14年4月 秋田県立能代中学校として創立
- 昭和23年4月 秋田県立能代南高等学校と改称
- 昭和28年4月 秋田県立能代高等学校と改称
- 昭和49年11月 高埜に新校舎落成、樽子山から移転
- 平成元年11月 雨天体育館完成
- 平成5年2月 前庭施工
- 平成7年9月 創立70周年記念式典を挙行
- 平成15年4月 理数学科新設
- 平成16年4月 2学期制実施
- 平成17年9月 創立80周年記念式典を挙行

卒業生

総数19,651名

県内外で各界の重鎮として活躍

生徒数

在籍生徒数702名

(平成19年4月6日現在)

学年	1年		2年		3年		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
普通科	128	107	109	91	101	95	382	320
理数科			25	8	19	19		

進学状況一覧

校種別	卒業年	平成19年		平成18年		平成17年		平成16年	
		合格	進学	合格	進学	合格	進学	合格	進学
国立大学	96	90	85	78	78	70	59	53	
公立大学	24	21	21	17	17	15	13	11	
管外大学	1	1	1	0	1	1	0	0	
(国公管小計)	121	112	107	95	96	86	72	64	
私立大学	224	84	247	99	251	117	191	105	
4年制合計	345	196	354	194	347	203	263	169	
国立短期大学	0	0	0	0	0	0	0	0	
公立短期大学	5	3	3	2	5	3	0	0	
管外短期大学	1	1	0	0	0	0	3	2	
私立短期大学	21	16	9	5	17	10	13	8	
(短大合計)	27	20	12	7	22	13	16	10	
専修・各種	34	29	46	32	20	18	40	28	
総計	406	245	412	233	389	234	319	207	
卒業生総数		277		274		283		262	

校舎配置図

- ① サッカー練習場
- ② 硬式野球場
- ③ 軟式野球場
- ④ 硬式観覧席
- ⑤ 軟式部室
- ⑥ 小屋
- ⑦ ゴミステーション
- ⑧ プール
- ⑨ テニス部室
- ⑩ テニスコート (4面)
- ⑪ 雨天体育館
- ⑫ 陸上競技場
- ⑬ セミナーハウス
- ⑭ 管理棟・特別教室棟
- ⑮ 昇降口棟
- ⑯ 普通教室棟
- ⑰ 第二体育館
- ⑱ 格技場
- ⑲ 部室
- ⑳ 第一体育館
- ㉑ 駐車場
- ㉒ 自転車置場

交通案内



所在地

〒016-0184 秋田県能代市字高埜2番地の1
電話 (0185) 54-2230(代)
FAX (0185) 54-2231